

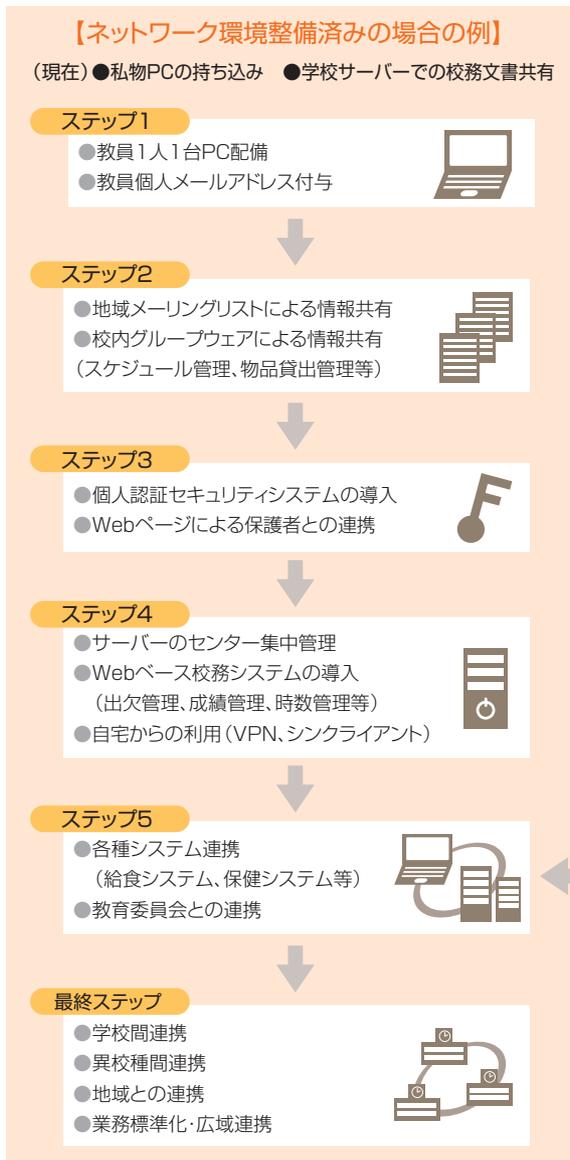


ネットワーク整備状況別モデルケース

校務情報化用ネットワークが整備済みの場合

授業用の校内ネットワークのほかに校務用のネットワークは整備されているものの、私物のコンピュータを学校に持ち込み、サーバーに接続して情報を共有しているケースも多いようです。

このようなケースでは、まず教員1人に1台のコンピュータを整備するとともに、全教員に個人メールアドレスを付与することから始めます。下の図は、ひとつの例ですが、計画性を持ってステップを追って校務情報化を充実させていきます。



校務情報化用ネットワークが未整備の場合

情報を共有する校務用のネットワークが整備されていないため、私物のコンピュータを持ち込んでフロッピーディスクやUSBメモリーなどの外部メディアを用いて情報を共有しているといったケースがごく一般的に見受けられます。

このようなケースでも、同様にまず教員1人に1台のコンピュータ整備と個人メールアドレスの付与から始め、そのあとで校務用のネットワークを整備していきます。整備済みのケースに比べてゆるやかなステップで一歩一歩校務情報化を進めていくことになります。

